

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年9月16日

【評価実施概要】

事業所番号	2670700471		
法人名	医療法人 三幸会		
事業所名	医療法人 三幸会 ケアサポートセンターけいほく		
所在地 (電話番号)	京都市右京区北塔町中筋浦44番1 (電話) 0771-53-8181		

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年10月25日

【情報提供票より】(平成19年 7月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 6人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.3人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	260 円	昼食 610 円
	夕食	610 円	おやつ 220 円
	または1日当たり 1,680円		

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 77 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都市立京北病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都駅から自動車で約1時間半、周山から車で5分程度奥に入った場所にホームは建っている。里山が迫り、田、畑の緑豊かな土地に軽量鉄骨造りでデイサービスとの併設平屋の建物である。塀はなく、玄関、居室も開放的である。ホームの前は農道で見通しよく、利用者の散策の場所になっている。季節ごとに変化する風景が楽しめる自然環境に囲まれ散策、ドライブを適宜行えるのも当ホームの特徴である。また京都市内から離れているホームであるが、家族の訪問は多い。開放的なホームへ地域住人の往来も増しつあり、利用者が一人で屋外を歩いている見守られている関係や、採りたての野菜、花が差し入れられる地域との関係が開設3年目のホームの成果の一つである。一方、職員はホームの理念について職員間で話し合い、新たに理念を設定するなど、チーム一丸となって課題意識を持ち取組もうとしている姿勢が伺える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の改善課題への取組は管理者が中心になり、職員全員で、理念の再検討・新たな設定、アセスメントやケア記録面において改善されている。研修については外部研修参加回数等が増し、先のアセスメント等ケアへの検討、充実に活かされている。物理的環境面の課題は取組について検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価にあたっては個々の職員で評価し、運営推進会議のメンバーの意見も反映させ、全体の課題として共有化をはかり、評価全体をまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の構成員はホームの事情に通じたメンバーで、ホームへは関心を持ち外部評価結果の検討に始まり、ホーム内点検等により、ホーム内の蛇口の取替え、庇の修理といった具体的な改善提案をしており、それに対してホームもきちんと対応している。また委員に対してはホームの運営、認知症等の理解を啓発する内容を議題にし、討議している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会の会話のなかで意見、苦情等は出され、内容はノートに記録し、職員会議で取り上げ検討し対応している。このノートには開設時以来の利用者の生活断片と共に、家族の意見等が記録されている。当ホームは家族が職員に気軽に意見、苦情の言える関係の構築を大切に、意見、苦情等については、今般新たな収集策を試みようとして検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者が一人で屋外を歩いている、ホームの住人と判る馴染みの関係ができてい。自治会に広報紙等を配り、小中学校との交流、野菜や、花の差し入れ、大正琴・踊りのボランティアの訪問活動等も定着しつつある。地域のイベントには利用者が挙って参加できる地域関係ができてい。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年4月新たに職員全員で、理念を作成している。①ゆっくり楽しく、寄り添って暮らせる家を目指します。②ご利用者様、ご家族様、地域の人々、私達スタッフの幸せを目指します。③自分でやれる喜びと達成感のある暮らしをめざしますとされている。外部へのアピールは現段階ではない。	○	理念は広報紙や、パンフレット、重要事項説明書、契約書等にも明記するなど利用者、家族はもとよりひろく地域の人たちに、ホームが理解されるよう取組が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	日中は特に決まったスケジュールはない。食堂、居間、居室、屋外で利用者同士、利用者と職員、家族が談笑し、散歩など思い思いの時間を過ごしている。一方ホームは施錠もせず開放的で、地域住民の出入りもあり、日常的に交流がなされている。壁には和紙に墨字で理念が書かれ、掛けられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「塔(地名)のケアセンター」で地元やタクシー運転手に通じる。自治会には「四季だより」を配布し、小中学生の来訪、住民の大正琴、踊りによる訪問が定着しつつある。自治会行事や地元サークル活動、老人会、神社の祭り等イベントに利用者は揃って参加している。今後地元の小学生の絵をホーム内に飾ること、ホームが通学路になっており、利用者と職員で交通安全に関われたらと、その取組を計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果は法人本部、職員会議、推進会議で共有し、指摘事項については現場中心で検討し、理念の見直し、全職員によるケアマネジメントの取組に改善が見られる。研修・交流機会の充実により職員自身、ケア、視野の拡大を実感し、ケアの質の向上に意欲を抱いている。ハード面についても検討はされているが、諸事情から今後の課題となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター所長、民生委員、利用者、家族で構成され、外部評価結果の検討や、ホーム内の蛇口の取替え、庇の修理といった提案や意見が交換され、実際改善に至っている。ホームからは認知症についての話、ホームの事業紹介をし、2ヶ月1回、全員出席で開催している。		

京都府：ケアサポートセンターけいほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	合併間もなく、市町村との関係は以前に比べ乏しく、これからの課題と捉えている。保健所とは従前通り連携し、法人本部の認知症専門医を招いた地域や関係者向けの講座を予定している。今後、具体的な実践の報告等を通し市町村との情報の共有を図り、連携の機会へと展開してゆくことを期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会は多く、家族への報告・情報交換は専らこの機会を活用している。定期的には「四季だより」でホームの生活の様子を報告しているが、今後は2ヶ月に1回程度の発行を検討している。利用者個人の様子、エピソードを一筆箋程度に記し、毎月の会計報告時に同封するのも家族・利用者の一体感の確保に繋がらないか検討を期待する。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は多く面会の際に聞き、職員会議等で随時検討し対処している。過去部屋に施錠してほしいとの要望があり利用者、家族と相談し対応した事例がある。家族との信頼関係を大切に、今後面会時に伝えられなかったこと、意見等を気軽に記してもらふノートの設置を検討している。意見箱は設けてあるが投函はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は多い。管理者は極力制限したいと考えている。職員異動があれば「四季だより」に報告し、ホームで送別会を催している。利用者やケアへの対策としては利用者毎の担当制はとらず、日々ケア担当制のもとに全員でケアに臨み、利用者への影響の軽減への工夫をしている。	○	個人理由の退職はさておくとしても、法人内部の異動については利用者への影響を配慮した計画的な人事異動が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度ホームは職員が増員されたこともあり、非常勤も含め研修参加が増している。特に「認知症アートセラピー」「東京センター方式」の研修は実践に活かせる勉強機会になったと複数の職員が報告し、ヒアリングでも述べている。本部では職層研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の社会福祉法人「豊和園」の居宅支援事業所、特別養護老人ホーム、地域包括支援センター等との交流、グループホーム協議会の同業者との交流が出来、外部研修は1カ月1回程度受講できている。その記録、伝達報告もなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学、体験の要望は拒まず受け入れている。ホームが京都市内から距離的に遠いため利用後の家族の訪問の可能性を重視し面談している。現在利用1週間前から、ホームに慣れるためのカリキュラムを設けよう検討している。事前段階の家庭訪問による利用者の生活把握、不安軽減のための職員との関係づくりも含め検討を期待したい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴、興味、関心等のアセスメントに意を注ぐと共に、ホームでできた作物、地域の人から届く新鮮な野菜や、花といった素材に手、肌で触れ、季節を感じ、思わずで「きれいやなあ！」といった利用者の反応、感動、刺激を大切に、利用者・職員で共感し、分かち合う関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
う					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が日常生活の中で、したいこと、行きたいこと等の意向・関心を傾聴・表情を観察し、家族からは、利用者の変化、過去の季節毎の暮らし方、意向等を聞き、ケアに繋げる利用者の情報把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画会議は関係者が充分時間のとれる日程に留意している。家族はもとより、馴染みの関係者、職員にて寛いだ雰囲気のもとに、散歩、外出機会の頻度、行き先、家庭用ホットパックの利用要望や、日頃把握している事柄など、出された事柄は話し合い、ケア計画作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ホーム独自の書式「介護計画実践表」にて日々のケアを確認、評価し、原則1ヶ月1回開く個別ケース会議で検討、状況変化があれば家族や、関係者、関係機関と情報交換し、3ヶ月1回の見直し会議に関わらず随時会議を開き見直している。		

京都府：ケアサポートセンターけいほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣家のディサービスの利用者がホームを訪ね、職員や利用者で談笑するなど寛ぐ場を提供している。主治医となっている地元医療機関にない診療科の受診には、家族の受診同行が困難な場合は職員が同行する。理美容院希望は同行している。	○	今後地域のニーズを把握し、当事業所の機能で対応可能なサービスの提供についての検討が望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者、家族の了解のもとに近隣の京都市立京北病院とし、定期的に月1回受診し医療・健康面を把握している。当該医療機関で対処できない場合はホームの看護師が連絡調整し、状況に応じ受診支援をしている。歯科はすぐ近所にあり、ホーム自慢の毎食後の口腔ケア等にかかる後方支援機関となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は終末期ケアに課題意識があり、スタッフ間でも話し合われてはいるが、実施に至る前の職員研修や、体制整備、利用者・家族との話し合い、意向把握には至っていない。	○	取組の検討の時期にあり、関係者間で検討を深め、方針を確立することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	パンフレットには「個人情報保護指針」が記され、職員入職時、誓約書を取っている。利用者の各部屋は内側から施錠ができる。更に鍵をつけたい利用者があり、対応している。トイレの際の声かけ等、日々の実行は職員間で注意し合い、体得していくこととしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、起床、就寝、食事、入浴等は本人ペースを尊重している。極端に就寝の早い人があり、家族に生活リズム等を聞き、従来通りの生活に即し対応している。深夜に起きだし昼間とは異なり周囲に配慮し過ごす利用者を発見し付き合っている。		

京都府：ケアサポートセンターけいほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	元栄養士の利用者には調理関係の役割を委ね本人も当然のことと振る舞われている。他の利用者との協働作業もとれ、穏やかな、会話のある雰囲気の中に準備、食事がなされている。食事中も味付け、食材についての話題が交わされ、献立もこの会話で出てくる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午後からであり、夜間入浴もできる。毎日入ることもできる。時には、隣接のデイサービスの大きな風呂で温泉気分も味わっている。介助は原則同姓介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	鮮やかなお手玉崩きを職員の勧めで披露される方、絵を得意とされる方の絵画を玄関に掛け、得意な調理の分担を設け、農作業に従事されていた利用者との作物の会話等、個々の利用者の得意とするところにさりげなく職員は誘導し、関係づくりや主役になる場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季折々楽しめる自然に囲まれ桜、蛍、紅葉、雪景色と四季の変化を享受し、ドライブ、散策とこのホームならではの季節を織り込んだ外出支援をしている。日常的には日用雑貨店があり散歩を兼ねた買い物をしている。利用者が散歩に出た場合は方向を見定め、危険が少ないコースであれば、後から職員が距離をおいて同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は扉を開き、鍵はかけていない。屋内の窓、廊下で隔てられているデイサービスの扉も鍵はかけていない。利用者の外出は職員が方向を確認し、同行あるいは見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルはある。消防訓練は定期的に行い、消防、警察との協力や連携体制は取れている。これ以外のフォーマルな住民との協力提携はない。	○	地域との連携の取り方、可能性の検討を期待すると同時に、備蓄物品については最低飲料水の備蓄が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日チェック表に記録し、職員間で情報を共有している。カロリーや栄養バランスは法人の管理栄養士の点検、指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は調理や、準備をしながら会話し、料理の香りも充満している。リビング中央にテーブル、ソファ、片隅に1人用椅子を配置し、リビングの一角にカーペットが敷かれ、横になることができる。冬はホームコタツを置き、横になることができる。壁面の中学生寄贈の手づくりカレンダーは地域、次世代との絆として、アクセントになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム側から用意された家具はない。ベッド・箆笥・椅子すべて利用者持ち込みで、個性はでていて。しかし管理者は、もう少し馴染みの品々がほしいと願っている。利用者のベッドの横に家族の布団の敷けるスペースはある。洋室と和室が準備されている。居室の窓からは連なる里山と緑豊かな広がりのある風景が眺められる。		